

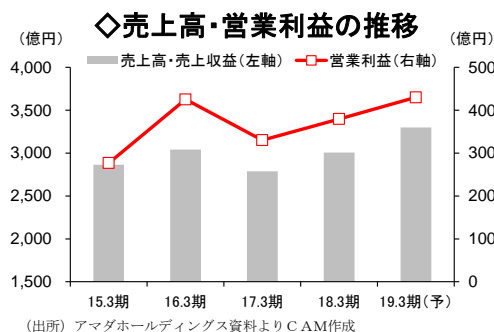
企業ニュース アマダホールディングス

(東証1部：6113) <http://www.amadaholdings.co.jp>

作成者：村上大志

金属加工機械の総合メーカー

1946年、創業。帯鋸盤の国産化やレーザ加工機の実用化、世界初のファイバーレーザ発振器の自社開発の成功などで事業を拡大してきた。2003年に製販一体の体制とすべくグループを再編し、金属加工機に加え、ソフトウェアや周辺装置、保守サービスなどを合わせて提供する金属加工機械の総合メーカーとして基盤を築いた。現在、板金部門で国内売上シェア約60%を占める。中期経営計画(17.3期-22.3期)では、売上高4,000億円、経常利益率20%、ROE10%を目標として掲げている。18.3期の事業別売上高構成比は金属加工機械事業83%、金属工作機械事業17%。



通期計画を上方修正

19.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は、受注高が1,637億円、前年同期比5%増、売上収益が1,546億円、同13%増、営業利益が203億円、同14%増。金属加工機械事業は、板金部門で主力のファイバーレーザ商品が欧米向けに好調だったほか、自動化・省力化に対応した曲げ加工機が国内外で堅調だった。溶接部門では自動車関連向けに抵抗溶接機の販売が拡大した。金属工作機械事業は、建築需要が旺盛な国内で鉄構加工機の販売が伸長した。

19.3期の会社計画は、売上収益が3,300億円、前期比9%増、営業利益が430億円、同8%増。各事業が国内外で好調なことや足元の受注が堅調なことから、通期計画を売上高で200億円、営業利益で25億円の上方修正を行った。また、上方修正に伴い期末配当予想を21円から23円へ増額し、100億円を上限とする自社株買いも発表した。事業環境は良好で、建築関連や医療機器向けが好調、北米では熟練工不足による自動化ニーズが高まっている。主力のファイバーレーザは新モデルの拡販が進み、業績への貢献が期待される。米国との貿易摩擦により中国で設備投資需要が減速しているが、当社は中国向け売上高比率が低いことから、今後も堅調な業績が見込まれよう。

[株価動向・投資判断]

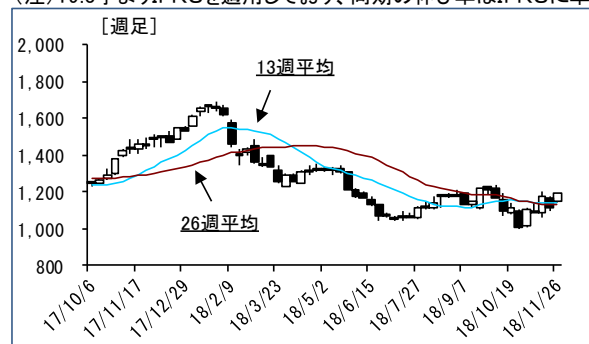
機械セクターは軟調な決算が多かった中、通期計画の上方修正に加え株主還元の強化を発表した点を評価したい。

<6113 アマダHD 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
17.3	278,840(▲8)	33,030(▲22)	34,307(▲21)	25,894(▲6)	70.9	記42.00
18.3	300,655(8)	37,965(15)	40,616(18)	29,856(15)	81.6	42.00
19.3予	330,000(9)	43,000(8)	45,300(11)	31,000(14)	84.7	44.00

(注)19.3予よりIFRSを適用しており、同期の伸び率はIFRSに準拠して作成された18.3期の実績値を使用して算出している。



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/11/26)	1,190円
年初来高値(高値日)	1,692円(18/1/23)
同 安値(安値日)	997円(18/10/26)
予想PER(19.3予)	14.0倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,215.9円
PBR	0.98倍
予想配当利回り	3.70%
(1株当たり配当金44.00円)	
ROE(18.3)	7.0%
発行済み株式数	37,812万株